生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター芳川担当圏域レベル）開催報告書

１　開催日時	令和　８年　２月２５日　（　水　） １０時００分　～　１１時３０分
２　開催場所	五島協働センター　ホール
３　参加者	２１名
委員１２名（芳川５名、五島４名、河輪３名）、関係機関５名、市社協４名	
４　協議の内容	

１．開会
２．挨拶　芳川圏域生活支援体制づくり協議体　会長
３．協議内容
　①前回の振り返り
　②今後の協議体の展開について
　　・第２層協議体設置状況、会議での協議テーマの紹介
　③意見交換（他圏域で印象に残ったテーマ、自分たちの地区で話し合うならどんなテーマ・課題がある？地区ごとに話し合うのに必要なメンバーは？）
　【芳川地区】
　■印象に残ったテーマ
　・全部のテーマが気になる　全てがつながっていると思うが、特に認知症のテーマが気になる、認知症の相談が増加している、多くの方に知ってもらうことができればとも考える。
　・徘徊などの相談も増加、オレンジシールも浸透はしてきている印象はあるが、最近では月に１回程度オレンジシールの発行をしている状態。
　・独居の方が多くなり、孤立する人が増えている印象、見守りの担い手も必要。ちょっとした困りごとの支援も今後増加してくると思われる
　・認知症の話題。サロンにも認知症の方が参加している。
　・情報紙を発行しているとの話があったが、どんなものをどんな方法で実施したか知りたい。
　・町内で見守りの体制づくりができればとも思う
　・身寄りのない人への関わりが増えている、身元保証などの情報が発信できれば。
　・若い方でも関わりやすい方法が検討できたら。
　・誰でも参加できるまちづくり
　・高齢者が高齢者を面倒見ているのが現状。
　・最近は行事の時はシニアクラブ会員でなくても誘い合っている、集いの場を広げる工夫もしている。

　■次年度以降　協議体でのテーマについて
　・地域の課題・解決策　「向こう三軒両隣の再現」ではないか、昔に戻りお付き合いも大事ということを広げていくこと。
　・新しく入ってきた人にはハードルが高い、きっかけがないと関わりが難しい。
　・必要性はわかっていても機会がなくて　つながりがない

・世の中の変化を受け入れていかなくてはならない。
・ひとりに負担が集中していくのは望ましくない、ちょっとずつみんなが負担し合うことが大切。
・若い世代が　どんな催しがあると良い？
⇒地元の人たちだけでなく　広く参加できる場があると良いのでは。
⇒子どもたちを出汁にして参加してもらうのは。

【五島地区】
■印象に残ったテーマ
・ゴミ出しの問題を感じる。
⇒芳川地区社協の家事支援の利用もゴミ出しが増えている。
⇒協力員は 20 人くらいいるが、それでも不足気味。協力員がいない町もあり近くに住む協力員などが対応している状況。
そもそもゴミ出しができない人はどうやって生活している？
・孤立・見守りについては問題になっている。特に遠州浜団地などは地縁のない単身高齢者も多い。
・新しい住民では自分から孤立する方（自治会に入らない、周りと関わらない）を選ぶ人もいる。
・外出支援・問題については今のところ聞かない。買い物については行ける人は車やバスを利用。移動スーパーが何か所か来ていて利用も多い。遠鉄ストア立野店で送迎バスが週 3 日出ているが、常客の中に座席について言う人がいて新しく利用したい人が入りづらい状況になっている。…サービスがあるのに利用できない。

■テーマについて
・地域の課題をどうやって把握するか。旧五島地区と遠州浜地区でも困り事は違ってくると思われる。
⇒アンケートの実施…どこが主体で行う？社協？なんのためにアンケートを行うのか明確化していく必要がある。

■五島地区で話し合うならどのようなメンバーが良いか
・自治会長、民生委員（選抜して）

【河輪地区】
■自分たちの地区において話し合うならどんなテーマ？どんな課題がある？
・実情についてシニアクラブ、サロンなど会員として把握はしていても、高齢に伴い参加を見合わせている方もいると思う。そういった調査をしてみるのはどうか。
・河輪地区で活動しているそれぞれの団体がどこを目指しているのかなどを知るためにも集まれる機会があるといい。
⇒自治会連合会、各自治会、地区社協、消防団、包括など
・協議体会議の内容など他の団体へおろす機会がないため出席している人しか知らない。地域の人を集めて説明をし、今会議に参加していない人にも知ってもらう機会が欲しい。⇒地区社協の音頭では集まらない。
・芳川地区 3 地区の課題の違いはとても感じる。河輪地区は 3 世代世帯が多く、介護申請者も 80 歳を超えてからと言う人も少なくない。
・中には移り住んだ方もいるので、何かしらつながり続けることが大事だと思う。
・ヘルパーの不足（生活支援の買い物に入れることが出来ない）

移動スーパーやネットスーパーを利用している。スマホを使う高齢者も少なくない。
同居していなくても同じ敷地内で生活している世帯も多く、週末に買い物へ出かけたり、通院の付き添いをしてもらっている。

５　今後の見通し・必要な対応
芳川、五島、河輪地区では地域性が大きく異なるため、それぞれの地区の実情にあった協議を進めて出てきた課題や困りごとに対して、地域でできる取り組みを考えてもらいたい。